

令和6年12月19日（令和7年1月6日解禁）

## 古井戸から50年ぶりの再発見・アカハライモリ渥美種族

### 【本件のポイント】

- 渥美半島で絶滅したとされてきたアカハライモリ「渥美種族」が50年ぶりに再発見されました。
- 本邦で著しい地域多様性を示すことが知られているアカハライモリの進化史を解明するうえで重要な知見となります。

### 【本文】

愛知教育大学、豊橋市自然史博物館、豊橋総合動植物公園他の共同チームは、愛知県渥美半島の豊橋市域において、2集団のアカハライモリを発見しました。本種の渥美半島集団は、かつて同半島固有の地方種族、「渥美種族」として報告された経緯があり、独特な形態的特徴や生活史を持つことが知られていましたが、1970年代の記録を最後に50年間確実な記録が途絶えており、同半島では絶滅したものと考えられてきました。一方、2016年の愛知教育大学の研究により、同県知多半島のイモリが渥美種族の残存集団であることが判明し、この集団は愛知県指定希少野生動植物種に指定されています。本チームではこの状況を踏まえ、渥美半島からもアカハライモリを再発見することを目的とし、継続した野外調査を行ってきました。

今回の発見の発端となったのは、古井戸の清掃作業の際に地域住民が偶然発見した1個体のイモリで、住民の1人から県自然環境課に情報提供があったことでその存在が明らかになりました。この発見を踏まえて、井戸の近隣や、それと類似した環境を探索した結果、今回の2集団の発見に至りました。アカハライモリは日本国内で3つの大きな系統群に分かれることが知られており、渥美種族はその中では中部日本群と呼ばれる系統に属しますが、同系統内では遺伝的に孤立した集団であり、他の集団との間には交配行動の際の生殖隔離も存在するため、本種の多様性や進化史を解明する上で重要な材料と位置付けられます。現在本邦の生物多様性が急速に失われている中で、いったん消滅したと考えられていた地域固有集団が、実は生き残っていることが明らかになった意義は大きく、この集団が再度失われることのないよう、保全のための慎重な対応が望まれます。

本研究結果は、2024年12月31日（火）発行の爬虫両棲類学会報（日本爬虫両棲類学会）で報告されました。

### ＜発表論文＞

■ 論文タイトル：渥美半島において50年ぶりに再発見されたアカハライモリ渥美種族（和文）  
Re-discovery of the Atsumi race of *Cynops pyrrhogaster* after 50 years absence in the Atsumi Peninsula（英文）

■ 著者：島田知彦<sup>1</sup>・\*・長谷川道明<sup>2</sup>・白井雅之<sup>3</sup>・榎本諒太<sup>3</sup>・萩原孝泰<sup>3</sup>・高見一利<sup>3</sup>・服部朗<sup>4</sup>・足立日向子<sup>1</sup>

<sup>1</sup>愛知教育大学 <sup>2</sup>豊橋市自然史博物館 <sup>3</sup>豊橋総合動植物公園 <sup>4</sup>大分県在住 \*責任著者

■ 掲載雑誌：爬虫両棲類学会報 2024 巻2号

### 【参考資料】

図1 今回渥美半島で再発見されたアカハライモリ渥美種族（A～Cは典型的な個体。Dは弱い婚姻色を呈する例外的な個体）。スケールは20 mm。今回の発表論文から引用。

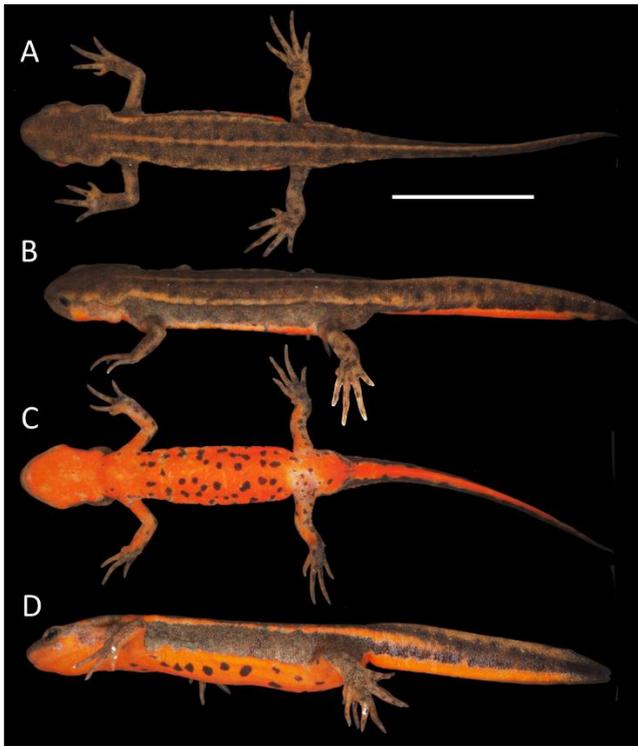


図2 アカハライモリ渥美種族の野生下の個体。



### 問い合わせ先

愛知教育大学 理科教育講座  
准教授 島田 知彦  
Tel: 0566-26-2364  
E-mail: tshimada@aeucc.aichi-edu.ac.jp

### 発信元

愛知教育大学 総務・企画部  
広報課 広報・渉外係 加藤・向井  
Tel: 0566-26-2738 Fax: 0566-26-2110  
E-mail: kouhou@m.aeucc.aichi-edu.ac.jp